

【抄録】

鶏用油性アジュバント加不活化ワクチン混合接種方法が採卵鶏に及ぼす影響とオイルシストの残留

村野多可子

Influence of Injection of Combined Oil-Adjuvanted Killed Vaccines in Laying Hens and Existence of Residual Oilcyst

Takako MURANO

要 旨

Salmonella Enteritidis (SE) 油性アジュバントワクチン (OEV) を含めたいくつかのOEV接種や用量・用法とは異なるOEV使用方法が、鶏の生産性、産卵率として出荷され成鶏の食鳥処理時に問題となるオイルシストの残留、ニューカッスル病 (ND) とSEの抗体価の推移に及ぼす影響について検討した。採卵鶏雌鶏 (83日齢) の3銘柄、ジュリア (鶏群1)、コーラル (鶏群2) およびイサブラウン (鶏群3) の各120羽を20羽ずつ6区に分けた。1区: 産卵低下症候群-1976(EDS)OEVを83日齢に0.25ml/羽頸部皮下に接種し、その1週間後にND・鶏伝染性気管支炎 (IB) 2価・鶏伝染性コリザ (IC) A・C型 (NBBACOEV) 0.5ml/羽とマイコプラズマ・ガリセプチカム感染症 (MG) OEV 0.25ml/羽をそれぞれ先の接種部位とは異なる頸部皮下に接種した。さらに2週間後にSEOEV 0.5ml/羽を肩部皮下に接種した。2区: EDSOEVを83日齢に0.25ml/羽頸部皮下に接種し、その1週間後にNBBACKV 0.5ml/羽とMGOEVB 0.5ml/羽をそれぞれ左右の脚部筋肉内に接種した。さらに2週間後にSEOEV 0.5ml/羽を肩部皮下に接種した。3区: EDSOEV、NBBACOEV、MGOEVAとSEOEVを1:2:1:2に混合したものを1.5ml/羽を90日齢に胸部筋肉内に接種した。4区: EDSOEV、NBBACKV、MGOEVBとSEOEVを1:2:2:2に混合したものを1.75ml/羽を90日齢に胸部筋肉内に接種した。5区: EDSOEV、NBBACOEV、MGOEVAとSEOEVを1:2:1:2に混合したものを1.5ml/羽を90日齢に脚部筋肉内に接種した。6区: EDSOEV、NBBACKV、MGOEVBとSEOEVを1:2:2:2に混合したものを1.75ml/羽を90日齢に脚部筋肉内に接種した。生産性に及ぼす影響は各鶏群とも、5、6区に顕著に現れ、次いで3区が用量用法通り接種した1、2区より、成績が劣る傾向にあった。接種4~6週後におけるオイルシストの残留は、5、6、3、1、4、2の順に重度であった。また、接種1年後では、同様の結果となった。ND-HI抗体価は各鶏群とも、363区がピークも高く、持続性も良好であった。SEのE値は各鶏群とも、6区が高い値で推移した。野外での異種ワクチンの混合接種時には必ずしも十分なワクチン成分の均一性が保証されないため、そのことが抗体や副反応の発現に影響することに注意を要する。ワクチンの使用にあたっては、用量用法を遵守することが大切であることを忘れてはならない。

(鶏病研究会報、第38巻、140-148、2002)